

ICT実践事例・修正指導案

本時のねらい	台上前転の跳び方について、大型テレビで開脚跳びの跳び方と比較することでポイントを見付けたり iPad で自分の跳び方を確認しながら練習したりすることを通して、自己の課題を捉えることができるようにする。
評価規準	台上前転の跳び方について、ポイントを見付けたり練習したりして、自己の課題を捉えている。
具体的な児童の姿	ロイノートで自分の台上前転の動画を見ながら、できているポイントやできていないポイントにマーキングをしている。

時間	児童の動き	指導○及び留意点・◎評価〈方法〉※支援を要する児童への手立て	準備物
8分	1. 準備運動・補助運動をする。	<p>○準備運動・補助運動を行うようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、準備運動、補助運動の順で行う。 ・補助運動は台上前転の動きにつながるように、ゆりかご、前転、うさぎ跳び、支持で跳び乗り・跳び下りを一連の流れで行う。 	ビブス
10分	2. 本時のめあてを確認する。	<p>○既習の跳び方との比較から、本時のめあてを位置付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TV を用いて前時に学習した開脚跳びのポイント（「手を遠くに着く」「目線はまっすぐ前」「腰を高く上げる」）を振り返り実際に跳ぶことで、既習の跳び方を想起することができるよ 	TV・タブレット・師範の動画



【想定される児童の姿】

- 手をつく位置が近い
- 跳び箱箱を掴むように持っている
- 視線が自分のおへその方を向いている
- 体を丸めている
- 腰が高く上がっている

- 新たに挑戦する台上前転の試技を見せた後、「開脚跳びとの違いは何か？」と問い、開脚跳びと台上前転の比較動画を見せることで、2つの跳び方の違いをもとにポイント（「手を近くに着く」「視線はおへそ」「腰をさらに高く上げる」）に気づくことができるようにする。



タブレット

※違いに気づきにくい場合はスローで比較するなどして、全員が確認することができるようにする。

※気付いたポイントについて理由も含めて考えることで、ポイントを動きのイメージへと繋げることができるようにする。

※気付いた違いを画面上に残し、確認することができるようにする。

10分

3. ポイントを意識して台上前転を跳

めあて

台上前転のポイントを確かめ、自分の課題を見つけよう

ぶ。

○見つけたポイントを確認しながら台上前転を跳ぶようにする。

- ・技能に応じて場を選んで跳ぶようにする。
- ・大型の跳び箱を用いて台の上で前転するスペースを確保したり適宜補助を行ったりするなど、安全に跳ぶことができるようにする。

※なかなか挑戦できない児童に対しては、適宜補助や声かけを行う。



1 0 4. ペアで動画を撮影し、自己の課題を捉える。

○iPadで自分たちの動きを撮影しながら互いに確認し、ポイントができていないか確かめ自己の課題を捉えることができるようにする。

- ・撮影の位置を確認し、適切なアングルで技を撮影することができるようにする。



◎台上前転の跳び方について、ポイントを見つけたり練習した

7分	5. 学習の振り返りを行い、次時へつなげる。	<p>りして、自己の課題を見付けている。〈観察・学習カード〉</p> <p>○ロイロノートで自分の技の動画を整理し、見つけたポイントから自己の課題について振り返ることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の技の動画に、できているポイントを赤で、できていないポイントを青でマーキングすることで、自己の課題を明確化し、次の学習へと繋げることができるようにする。 ・自己の課題についてみんなと共有することで、次時の学習での見合い教え合いの視点にすることができるようにする。 	
----	------------------------	---	--

A1 教員による教材の提示, B1 個に応じる学習, B3 思考を深める学習

☆一人一台端末の使用は効果的であったか

- 大型テレビと iPad の動画再生機能、アプリ「ロイロノート」の書き込み機能を用いてめあてを確認することは、児童と動きのポイントを共有するために非常に効果的であった。
- アプリ「見比べレッスン」を用いて、開脚跳びと台上前転の動きを比較しながら見せることは、既存の知識を用い二つの違いから台上前転のポイントに気付くことができるようにするために有効であった。
- iPad を用いて、ペアで動きを録画させることは、ポイントをおさえて跳べているかどうかや自分の課題が何かを明確に捉えさせるために有効であった。
- アプリ「ロイロノート」を用いて、撮影した動画にポイントができているかどうかを書き込ませることは、動きのポイントや自己の課題を明確に捉えさせるために有効であった。また、ポイントと自己の動きを比較しながらさらなるポイントを見つけたり課題解決のための方法を考えたりすることにもつながるなど、児童の思考を深めるためにも有効であった。
- 以上の ICT 活用およびその効果により、県の重点課題である、「ねらい、めあて、課題、まとめ、振り返りに一貫性のある授業」の実現を図ることができた。
- ▲児童の振り返りをより本時のねらいに沿ったものにし活動をスムーズに行わせるため、自由記述ではなく、動画にできたポイントとできなかったポイントを書き込ませるだけでもよかった。